

社会倫理の諸問題（3）

Overview

- ・ 社会的実践の根拠としての隣人愛
 - ・ 人種・民族差別
 - ・ 身体的差異による差別
 - ・ 性差別
- ・ 諸教派・諸宗教の共存
 - ・ まとめ

諸教派・諸宗教の共存

ローマ法王 テロ無くすため宗教間対話を

【NHK Online, 2014.11.29】ローマ法王のフランシスコ法王は訪問先のトルコで会見し、戦闘が続くシリアなど中東の現状に懸念を示したうえで、テロ行為を無くすため異なる**宗教間の対話**を進めるべきだと訴えました。

トルコを訪れているフランシスコ法王は28日、首都アンカラでエルドアン大統領と会談したあと、2人そろって記者会見しました。この中で、フランシスコ法王は「中東で戦闘が続いていることに、われわれは目をつぶってはならない」と述べ、イスラム過激派組織「イスラム国」の台頭などで今も戦闘が続くシリアやイラクの現状に懸念を示しました。

そのうえで「あらゆるテロ行為を終わらせるため、異なる**宗教や文化の間での対話**が重要だ」と述べ、異なる宗教間の対話を進めるべきだと訴えました。（後略）

教派の違いによる差別・争い

- ・ 教派（denomination）とは何か
- ・ カトリックと正教会とプロテスタントの違い
- ・ 東西教会の分裂（1054年）、宗教改革（1517年）
- ・ プロテスタントの中の諸教派の違い

キリスト教世界の多様性

西方キリスト教世界

- ローマ・カトリック教会
- ↓
- 英国国教会（聖公会）
- プロテスタント教会
- ルター派（ルーテル）教会
- 改革派教会・長老派教会
- 会衆派教会
- バプテスト教会
- メソジスト教会、等々

東方キリスト教世界

- 東方正教会
- コンスタンティノープル総主教庁
- アレクサンドリア総主教庁
- エルサレム総主教庁
- ロシア正教会
- セルビア正教会
- ルーマニア正教会
- ギリシャ正教会
- 日本正教会、等々

教派の対立を越えて—エキュメニカル運動

- エキュメニカル運動（教派一致運動）
- 1910年のエジンバラ世界宣教会議が起源。
- 世界教会協議会（World Council of Churches）
- 1948年、オランダのアムステルダムで発足。
- ヨーロッパと北米を中心とする147の加盟教団から始まったが、今では、110以上の国から349の教団が加盟している。
- 東方正教会は設立当初からのメンバーであるが、ローマ・カトリック教会は加盟していない。ただし、カトリックは様々な会議でオブザーバーとして参加し、共同の作業に加わっている。

宗教が関係している紛争の例

- ボスニア（カトリック、セルビア正教会、イスラーム）
- インド（ヒンドゥー、イスラーム、キリスト教）
- インドネシア（イスラーム、キリスト教）
- タイ（イスラーム、仏教）
- 中東（イスラーム、ユダヤ教、キリスト教）
- 北アイルランド（プロテスタント、カトリック）
- スーダン（イスラーム、キリスト教）
- 米・同時多発テロ（イスラーム、西洋社会）
- 中国（共産党、チベット仏教、ウイグル自治区イスラーム）

「宗教紛争」に対する注意

- 宗教の対立が紛争の直接の「原因」となっていることはまれ。
- 紛争の原因は複合的。
- 「宗教紛争」という表現は、しばしば問題を単純化しすぎる。
- しかし、いったん始まった紛争において宗教が関与し、それが「要素」となって紛争が長引いたり、複雑化したりすることはある。

一神教相互の対立と抗争の歴史

- キリスト教世界の中のユダヤ教
- 反ユダヤ主義（anti-Semitism）
- キリスト教とイスラーム
- レコンキスタ：718年-1492年に行われたキリスト教国によるイベリア半島の再征服。
- 十字軍：11世紀末から13世紀にかけて、聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回するため、前後8回にわたり行われた西欧キリスト教徒による遠征。

置換主義（supersessionism）

- "supersessionism"は、ラテン語 "supersedere" (=to sit upon) に由来する。
- キリスト教が「新しいイスラエル」としてユダヤ教に取って代わるという考え方。ヨハネ文書や「ヘブライ人への手紙」に、この傾向性が強く見られる。
- (ヘブライ語)「聖書」は「旧約聖書」とされ、「新約聖書」が「旧約聖書」に取って代わる。
- ユダヤ人の強制改宗や反ユダヤ主義の原因の一つとして「置換主義」を考えることができる。



一神教研究の必要性

- ユダヤ教・キリスト教・イスラーム
- アブラハムを信仰の父とする伝統と歴史を共有する兄弟宗教。
- 「近さ」ゆえの対立（近親憎悪）
- 欧米、中東では一神教同士の対等な対話は困難を伴う。
- 同志社大学 一神教学際研究センター（CISMOR）の設立（2003年）
→ <http://www.cismor.jp>



宗教間対話の課題

- 他者の宗教的感情の尊重。
- 諸宗教の共存可能条件の形成。
- 各宗教内における保守派（原理主義者）とリベラル派の対話。
- 宗教的価値と世俗的価値（啓蒙主義的価値：人権、表現の自由など）の対立の抑制。
- [参考] 京都・宗教系大学院連合（K-GURS）の設立（2005年）
→ <http://www.kgurs.jp>

ま と め

他者性の認識——隣人愛の応用

- 「隣人を自分のように愛しなさい。」
（マルコ12:31他）
- 他者の「他者性」をどのように認識するのか。
- 絶対他者としての神（他者性の起源）
- 他者認識を欠く者は、他者を従属・同化させようとする。

西欧神学（「普遍性」）の相対化

- 一つの文化 → 西欧文化
- 一つの人種 → 白人
- 一つの性 → 男性
- 一つの階級 → 支配階級
- 一つの宗教 → キリスト教

神学とコンテキストの関係

- 誰が
 - どこで
 - 何のために
 - どのような
- 
- 神学を必要とするのか？

経験的規範による聖書解釈

- 経験に即して、それぞれの聖書テキストに価値の重みを分配することは、解釈上、必要である。
- しかし、自分の立場を「正当化」するために聖書を利用（悪用）することに対しては、批判的な視点を持たなければならない。

グローバル・エシックスの土台 としての宗教間対話

- キリスト教の中だけで、あるいは、キリスト教の力だけで、社会倫理にかかわる現代的課題を解決することはできない。
- 異なる信仰・価値観を持つ人々が平和で安定した生活を送るためには、他の宗教への理解や、それらとの対話・協力を欠くことができない。